

首里城公園

令和7年度モニタリング結果の概要

1. 首里城公園の管理区分について
2. 入域観光客と入園者・入場者の推移
3. サービスの安定性の評価(財務状況)
4. 履行確認・評価
5. サービスの質の評価(利用者アンケート結果)
6. 総合評価

令和8年8月13日 沖縄県都市公園課

1. 首里城公園内の管理区分について

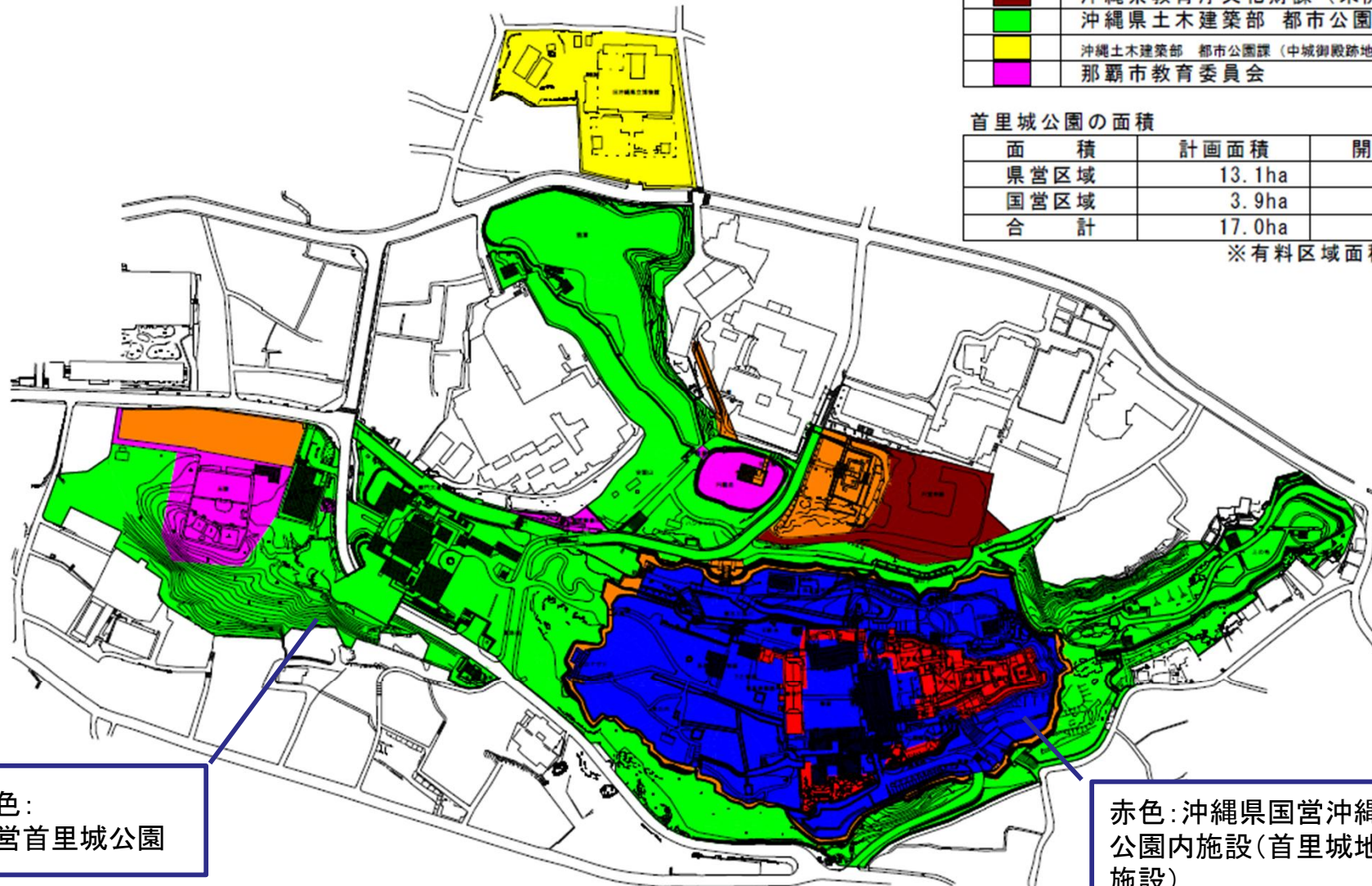
令和8年度 首里城公園管理区分図

凡例	管 理 区 分
■	沖縄県土木建築部 都市公園課 沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）
■	沖縄総合事務局（正殿工事区域含む）
■	沖縄県教育庁文化財課
■	沖縄県教育庁文化財課（未開園部分）
■	沖縄県土木建築部 都市公園課
■	沖縄土木建築部 都市公園課（中城御殿跡地）
■	那覇市教育委員会

首里城公園の面積

面 積	計画面積	開園面積
県営区域	13.1ha	7.2ha
国営区域	3.9ha	3.9ha
合 計	17.0ha	11.1ha

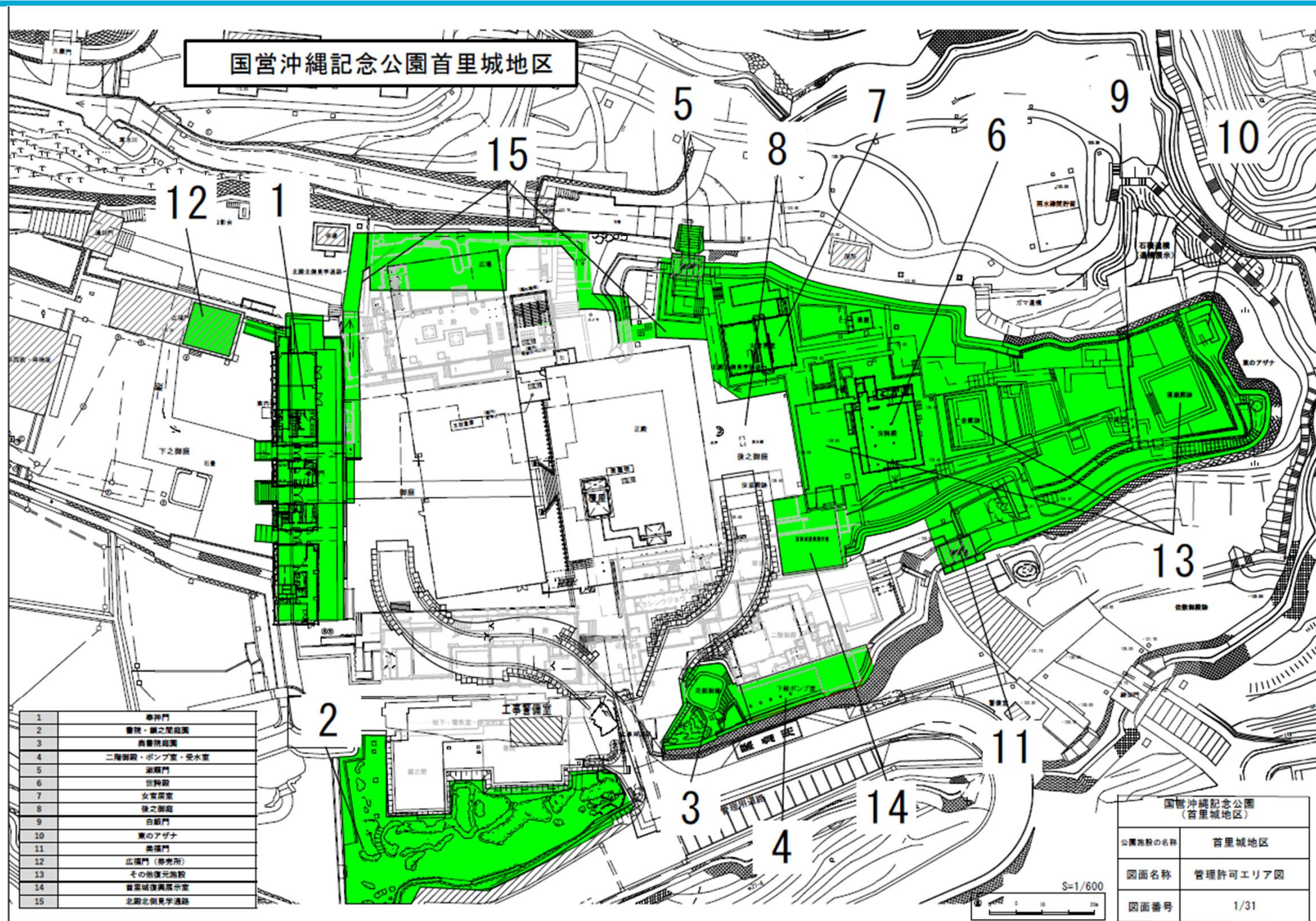
※有料区域面積 1.4ha



緑色：
県営首里城公園

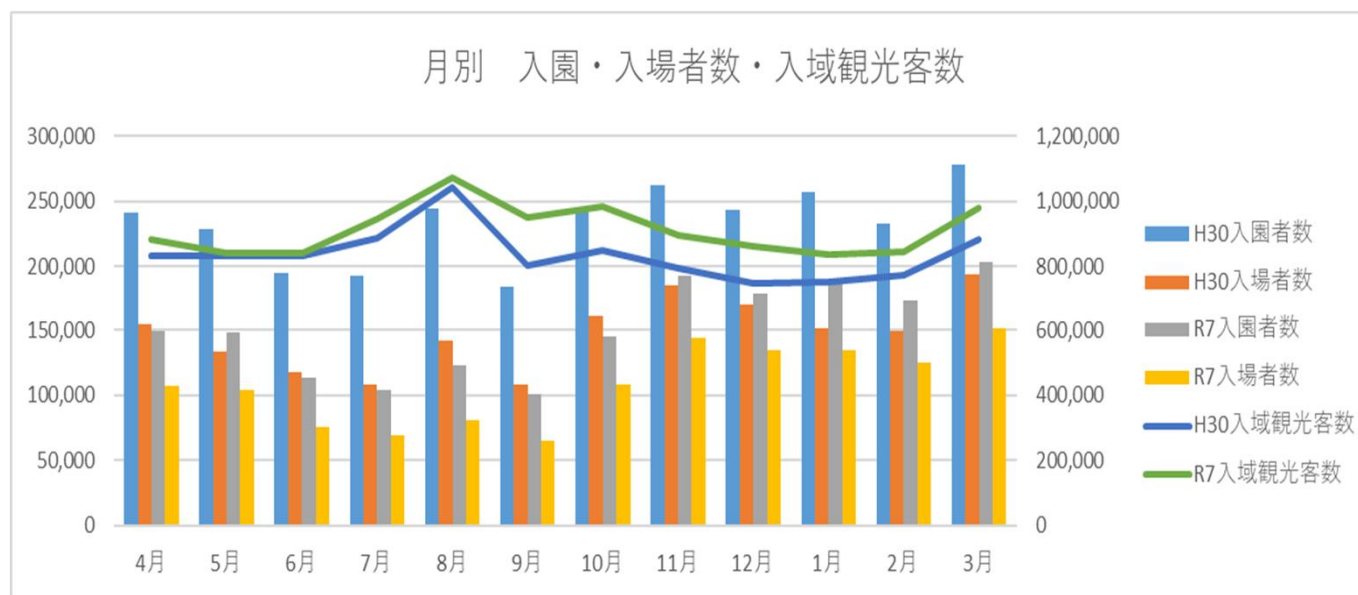
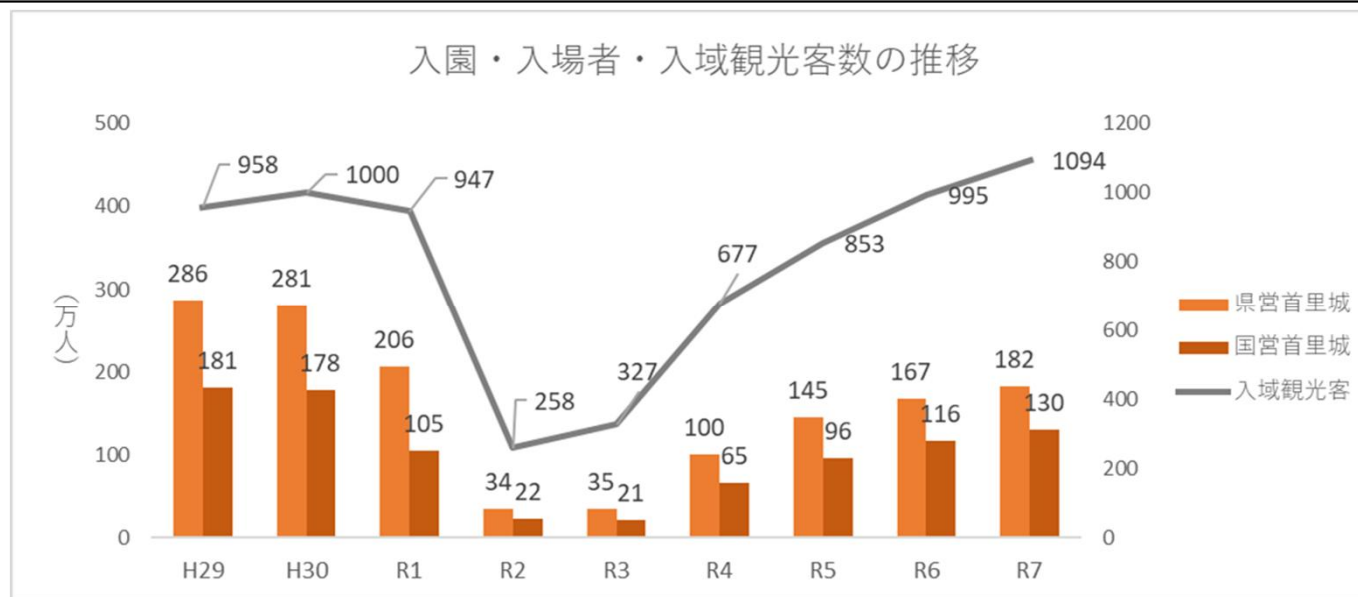
赤色：沖縄県国営沖縄記念
公園内施設（首里城地区内
施設）
→「有料区域」と呼ぶ

有料区域内の沖縄県の管理エリア



2. 入域観光客と入園者・入場者の推移

- 令和7年度は、旅行需要を見込んだ航空会社による臨時便・増便・季節運航等の実績が好調に推移したことから、入域観光客数は前年度比で増加したことで入園者は前年度比+9.0%、入場者が前年度比+12.1%（入域観光客+9.9%）となった。
- 入域観光客に占める入園者の割合は16.7%となっており、火災前の水準28.0%に達していない。



3. サービスの安定性の評価(財務状況)―首里城有料区域

○ 入場料収入は、モノレールへの広告やSNS等での情報発信、大型看板設置による有料区域への誘導を実施したことで入場者数が増加し前年度比＋13.2%となった。

○ 売店等の収入は、入場者増に伴う客数の増に加え、新商品のSNSでの情報発信等や売り場レイアウトの変更により、購入点数及び客単価が増加し、前年度比＋43.5%となった。

○ 支出においては、入場者数の増に伴い各種経費が増加しており前年度比＋20.4%となっている。特に人件費、商品仕入れ、支払い手数料、租税公課が増加している。

首里城有料区域

(単位：千円)

		H30 2ヶ月	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	対前年度比
収入	入場料	236,694	669,068	72,375	68,758	213,900	313,994	382,324	432,616	113.2%
	売店等	60,856	264,249	21,692	38,115	155,915	229,720	294,121	422,118	143.5%
	県補助金			31,850	34,722	0	0	0	0	0.0%
	指定管理料					242,903	265,793	210,457	218,727	103.9%
	その他	90	19,796	56,640	43,872	7,369	5,087	15,641	20,621	131.8%
	計	297,640	953,113	182,557	185,467	620,087	814,594	902,543	1,094,082	121.2%
支出	管理運営経費	218,905	1,077,142	467,688	388,777	599,025	807,193	893,991	1,076,075	120.4%
	固定納付金	37,694	136,050	31,850	34,722	0	0	0	0	0.0%
	公園関連事業等	1,264	39,835	13,511	10,142	21,811	8,123	15,223	18,401	120.9%
	計	257,863	1,253,027	513,049	433,641	620,836	815,316	909,214	1,094,476	120.4%
収支差		39,777	-299,914	-330,492	-248,174	-749	-722	-6,671	-394	

3. サービスの安定性の評価(財務状況)ー県営首里城公園

○ 県営首里城公園は、利用料金収入で管理運営経費が賄えない施設として、従来より指定管理者に対し指定管理料年約1.6億円を支払っている。令和7年度においては、首里杜館の設備修繕に係る費用として6,108千円、賃上げ促進のための指定管理料再算定に伴い2,827千円増額したが、前年度の設備修繕に係る費用として73,998千円を増額していたため前年比-25.2%となっている。

○ 駐車場収入は、令和6年7月に料金改定を実施し、令和7年度においては対前年比増を見込んでいたが前年比と同程度と横ばいとなっている。バス予約制により大型車両の利用台数は前年比+12.7%と増加したものの、小型車両の利用台数が対前年比-7.1%、合計利用台数が前年比-5.8%となっている。

○ 支出においては、首里杜館の設備修繕や料金単価改定に伴う増収分を活用した新たな公園利用サービスの実施しているものの、前年度における設備修繕に係る費用が高額だったため管理運営経費は前年度比-6.9%となっている。

県営首里城公園

(単位：千円)

			R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	対前年度比
収入	駐車場収入		89,951	23,382	18,976	55,951	81,401	117,277	117,330	100.0%
	他利用料金収入		969	1,256	548	742	873	719	879	122.3%
	指定管理料		165,253	189,378	161,462	161,462	203,843	227,738	170,396	74.8%
	その他		17,077	15,191	22,265	7,365	5,249	15,427	9,030	58.5%
	計		273,250	229,207	203,251	225,520	291,366	361,161	297,635	82.4%
支出	管理運営経費		282,491	229,185	196,212	227,538	303,221	374,359	348,418	93.1%
収支差			-9,241	22	7,039	-2,018	-11,855	-13,198	-50,783	384.8%

4. 履行確認・評価

<首里城有料区域>

維持管理業務

- ・施設維持管理
- ・安全衛生管理
- ・その他維持管理に関する業務

運営業務

- ・入場料收受
- ・首里城復興普及啓発
- ・復元整備に関する展示解説等
- ・行催事
- ・売店営業等
- ・広告宣伝・誘客営業活動及び利用促進計画
- ・利用者案内・警護
- ・その他運営に関する業務

自主事業(関連事業)

- ・企画調査研究
- ・地域還元事業
- ・公園関連事業

<県営首里城公園>

維持管理業務

- ・施設維持管理
 - ・清掃
 - ・植栽管理
 - ・施設管理
 - ・修繕
- ・警備及び利用者誘導

運営業務

- ・行為の許可手続き
- ・利用料金の徴収に関する業務
(駐車料金、行為の許可)

自主事業

- ・首里杜館の売店及びレストラン
- ・本設店舗の売店
- ・城郭内と連携した各種イベントの開催

安全衛生管理－防火管理について

現状分析・課題

- 以下の取組内容が良好に実施されていることを確認。
 - ・ 毎月県・国と連携し、奉神門管理事務室、首里杜館（防災センター）、公園管理センター、工事警備室の4か所の管理室と国の工事エリアを含む公園全体で様々なリスクによる訓練を実施。
 - ・ 国・県・指定管理者と合同で振り返りを実施し、課題を抽出して改善に努めた。
 - ・ 訓練終了後に現場における訓練参加者の振り返りを実施し、課題点や疑問点を立会い監督者と確認することで防災意識やスキル向上を図った。
 - ・ 令和7年度に運用が開始された、管理センター増築棟のトレーニング用機材を活用し、実践的な機器の使用訓練を実施し、スキル向上を図った。

取組改善案

- 安全対策の取り組みとして、新たな設備等を活用した訓練や那覇市消防局と締結した包括連携協定に基づく、消防局による訓練立会・講評を踏まえた改善を図るなど適切に取り組まれている。引き続き復元工事の進捗にあわせ変化する状況に応じた訓練等を実施し、継続的な改善を図る必要がある。

5. サービスの質の評価(利用者アンケート結果)

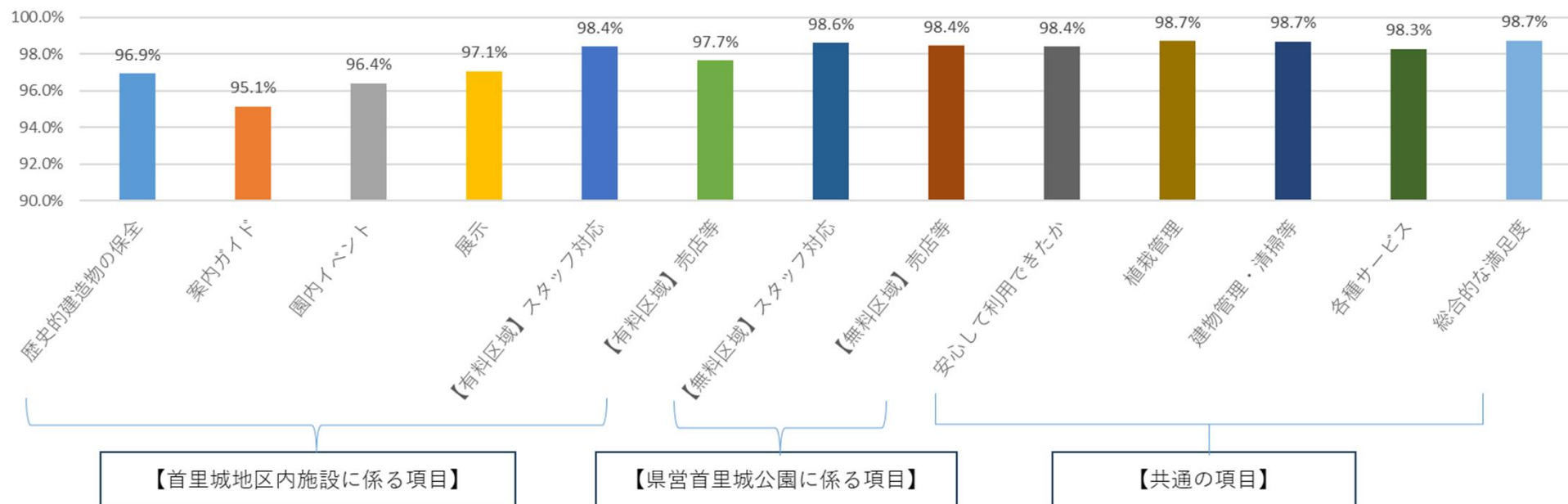
アンケートの手法と結果

- 記入用紙とアンケート回収箱を園内5か所に設置するほか、園内掲示や日本語版リーフレットにQRコードを表示し、QRコードでは多言語アンケートを導入している。回答件数は、R7年度合計で10,946件、前年度比+36%となり回収数が増加している。
- アンケート回収数10,946件のうち、外国人の回答は1,695件で約15%となっており多言語化による効果が出ている。
- 首里城有料区域、県営首里城公園ともに全てのカテゴリで高い満足度を維持できている。

取組改善案

- 正殿供用開始に伴い利用者増が見込まれるため、引き続き、Webアンケート等の手法を交えてアンケートを実施し、ニーズを着実に把握することで今後の管理運営の課題解決につなげる必要がある。

「満足」「どちらかという満足」と回答した方の割合



6. 総合評価-首里城有料区域

評価項目		評価指標	令和6年度実績	事業計画(目標値)	令和7年度実績	前年比	計画比	現状分析・課題	評価(点数)	取組改善案
成果指標	①利用状況	利用者数(入場者数)	1,155,168	1,249,000	1,301,097	112.6%	104.2%	・沖縄県への入城観光客数が国内客、国外客とも堅調な伸びを見せてコロナ禍前の水準を上回った状況を的確に受け止めて誘客を図ることにより、前年度実績及び目標値を堅実に上回った。 【参考】 入城観光客数 R5: 8,532千人 R6: 9,952千人 R7:10,935千人	A (10)	・SNSでの情報発信や誘導看板の設置、イベント時の割引適用等による有料区域への誘客促進策を講じており、入園者に対する入場者の割合が増加するなど、一定の効果が出ているため取組を継続し入場者数増に繋げる必要がある。 ・新たに正殿内観覧の事前予約制を導入することから、予約方法などの周知を図る必要がある。 ・正殿供用開始をきっかけとして注目される機会となることから、首里城の魅力を伝えられるよう普及啓発の取組を進めるとともに、これまでの多数の協力に対する感謝や復興の歩みをわかりやすく伝えるような発信に努める必要がある。 ・正殿完成後も、その他の被災建物の復元等は続くため、引き続き「見せる復興」のPR等に努める必要がある。
	②満足度	満足度	96.7%	90%	97.6%	100.9%	108.4%	・各項目ともに満足度が高く良好な結果になっている。 ・QRコードの活用、多言語アンケートも実施し、多くのお客様の声を収集するよう取り組んでおり、アンケート回収数は飛躍的に伸びている。	S (20)	・各項目とも前年度以上に高い評価を受けており、良好な結果となっている。 ・利用者アンケートの回収数は向上しているため、これを継続するとともに、Webアンケート等の適切な手法を交え多様なニーズの変化を着実に把握することを通じて、管理運営の課題解決に繋げる必要がある。
財務指標	③財務状況	収益率	-0.7%	-4.4%	0.0%	4.9%	0.8%	・事業収支は393千円の赤字となっているものの、R6年度実績および事業計画上の赤字と比較して大きく改善しており、収支は概ね均衡している。 ・入場料収入および売店等収入の増加により収入が伸長したことに加え、経費執行が一定程度抑制されたことが、収支改善に寄与しているものと考えられる。 ・利用料金収入が収入全体の大きな割合を占めており、今後も入場者数や入場率の変動が収支に与える影響を注視する必要がある。 ・人員補充や労務単価上昇による人件費増加が見込まれることから、適正な人員配置と効率的な運営体制の確保が重要となる。 ・利用者数は増加しているものの、人件費、商品仕入、支払手数料、利用者サービス費、租税公課等の関連経費も増加しており、利用者数の増加だけではコスト増を十分に吸収しきれない状況と考えられる。	B (0)	・収入については、入場料収入は順調な利用者増及び入場率増に伴い増収し、売店等収入は利用者ニーズに対応した新商品の開発・販売を行うことで、売上、客単価ともに上昇している。 ・正殿供用に伴い利用者が増えることが想定され、収入支出ともに増加すること見込まれるため、引き続き有料区域への誘客施策の実施による入場率の維持向上を図り、正殿完成商品の開発等更なる収入増を目指す必要がある。 ・適切な在庫管理やデザインの内製化等の工夫により、執行額が抑えられているため継続して取り組む必要がある。
活動指標	④重点取組事項	HPアクセス数	4,603,351件	3,300,000件	4,486,845件	97.5%	136.0%	・若い世代はSNSで情報収集する傾向があり、HPアクセス数は前年より減少した。 ・財団で復興に関する専用ページを立ち上げた。また、自主事業や持込イベント等の情報発信を行うことにより、目標値を大きく上回る結果となった。	S (10)	・令和8年度は正殿供用開始となり、それに伴いHPアクセス数の増加が見込まれる。 ・HPは情報発信の根幹として漏れなく正確な情報を掲載する必要がある。 ・復興の魅力に加え、オーバーツーリズムを解決するアクセス、駐車場の満空情報等も掲載を継続し、利用者サービスの向上に寄与する。 ・令和8年度4月から首里城アプリの運用を開始し、HPとアプリの相互連携を図ることで利用者の利便性向上に努め、かつHPのアクセス数増を図る必要がある。
総合評価		良好に実施できている。 引き続き、入場者数の確保に努めるとともに、経費の節減を図り、収支改善に取り組む必要がある。							S (40)	

6. 総合評価-県営首里城公園

評価項目		評価指標	令和6年度実績	事業計画 (目標値)	令和7年度実績			現状分析・課題	評価 (点数)	取組改善案
						前年比	計画比			
成果指標	①利用状況	利用者数	1,671,691人	1,710,000人	1,821,325人	109.0%	106.5%	・沖縄県への入域観光客数が、航空会社による増便等により堅調な伸びを見せて、増加したことで前年度実績及び目標値を上回った。 【参考】 入域観光客数 R6: 9,952千人 R7: 10,935千人	A (10)	・良好に実施できている。 ・正殿供用開始に伴い来園者の増加が見込まれるため、有料区域への誘客に繋げられるような工夫を凝らすこと。 ・引き続き地域等との意見交換を踏まえ、駐車場の運用方法についての検討を行うこと。
	②満足度	満足度	97.7%	90%	98.5%	100.8%	109.4%	・QRコードを使用したアンケートの収集数強化のため、回答後にはオリジナルの待ち受けをダウンロードできるよう仕様を変更した。 また、有料区域へのチケットにもQRコードを印刷し周知方法を拡充させた結果、10,946件のアンケートを回収することができた。【前年度総回収数: 7,998件】	S (20)	・各項目とも高い評価を受けており良好な結果となっている。 ・正殿供用開始に伴う利用者増が見込まれるため、引き続き、アンケート回収数増に取り組み、多様なニーズの変化を着実に把握し、今後の管理運営の課題解決に繋げる必要がある。
財務指標	③財務状況	収益率	-3.7%	-11.1%	-17.1%	21.4%	64.8%	・バス予約制の導入により、収入源である小型車用駐車スペースが狭まったため、当初見込みを下回った。 ・人件費増や労務単価増等による保安警備費・設備管理費の増、清掃回数増等による清掃費増等が要因となり、経費増となった。 ・光熱水費減、維持管理業務の効率化等により経費を圧縮したが、実績としては赤字となった。	C (-5)	・収支実績はマイナスであることから、引き続き収支改善に向けた取組が必要である。 ・バス予約システムの導入に対応した運用体制を構築し、効率化を図るなど、収入増に向けた取組を行う必要がある。
活動指標	④重点取組事項	アンケート回収数の増加 ※来園者数に対するアンケート回収数	7,998件	8,000件	10,946件	137%	137%	・QRコードを使用したアンケートの収集数強化のため、回答後にはオリジナルの待ち受けをダウンロードできるよう仕様を変更した。 また、有料区域へのチケットにもQRコードを印刷し周知方法を拡充させた結果、10,946件のアンケートを回収することができた。【前年度総回収数: 7,998件】。	S (10)	・利用者アンケートの回収数は向上しているため、これを継続するとともに、Webアンケート等の適切な手法を交え多様なニーズの変化を着実に把握することを通じて、管理運営の課題解決に繋げる必要がある。
総合評価		良好に実施できている。 引き続き、入園者数の確保に努めるとともに、経費の節減を図り、収支改善に取り組む必要がある。							A (35)	